

# 津高同窓会報

発行所 津市新町3丁目1-1 津高等学校同窓会事務局  
0592-28-0256 共立印刷株式会社

ウィルス研究百年の歩みに思う……2  
三重校舎長をお受けて……3 各支部同窓会報告……5  
ボランティア……6 追憶のことは……6  
骨……7 進路の窓から……7  
同窓パーティーを担う……8 異……8 動……11

# 故より身に見



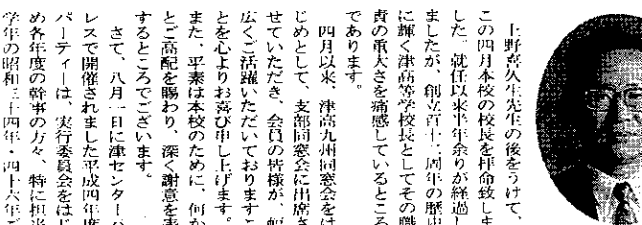
あわただし、師走の候となりま  
したが、会員の皆様には、清輝の  
ことと存じます。



絵「部屋」 故藤本節子さん (昭和34年卒)  
タイトル文字 千草光洞氏 (昭和23年卒)

今年同窓会にとりまして、特  
に母校創立百周年記念行事に於  
けるご活躍は華々しく、当時のお  
元氣な面影が形骸として思い出さ  
れます。

同窓会長 辻 嘉一 (昭和10年卒)



ご挨拶  
学校長 井坂 剛

上野嘉久先生の後をうけて、  
この四月本校の校長を拝命致しま  
した。就任以来半年余りが経過し  
ましたが、創設百十、周年の歴史  
に輝く津高の校長としてその職  
責の重大さを痛感しているところ  
であります。

四月以来、津高九州同窓会を以  
て、支部同窓会に出席さ  
せていただき、会員の皆様から、幅  
広くご活躍いただいております。こ  
れを心よりお喜び申し上げます。  
また、平素は本校のために、何か  
とご高配を賜わり、深く謝意を表  
するところでございます。

さて、八月一日に津センターハ  
ウスで開催された平成四年度  
パーティーは、実行委員会を以て  
各年度の幹事の方々、特に担当  
学年の昭和十四年・四十六年ご  
ご挨拶といたします。

り、サロンコンサートが催されま  
したが、格調の高いメロディの流  
れは、満場の聴衆を魅了し、暫し  
驚きをおぼせさせるようなまじやか  
さを感じました。

ハッピーデーでは通年中国から李  
惠蔭、龍田山氏ご夫妻がご出席  
日本語で「あいさつ」され、会場  
のムードをいよいよ盛り上げて  
くれました。両氏は当時の満洲国  
から留學生として、母校に在籍さ  
れました。日中同窓会、十周年に  
当たる本年、念願の交友会の再会  
を果されました。同窓生の固き友  
情の絆が、このような企画を実現  
させたわけで、関係者の方々のお  
骨折りに対し敬意を表します。

どうか、明年も実り豊かな年と  
ありませう。同窓会の発展と会  
員皆様の幸福を心よりお祈りし  
まして私の「ごあいさつ」といたしま  
す。



「こちら編集部  
茨木 政彦 (昭和51年卒)

お休みのウキウキウウッチ  
ング・戸・タモリの歌声で私の  
目が覚める。深夜二、三時に帰宅  
（寝る前にファミコン、翌日一  
笑っていいとも）を見てから出社  
する。こんな生活も今年で十一年  
目を迎えた。

ウイルス研究 百年の歩みに思う

第八回国際ウイルス肝炎会議長

西岡 久壽彌 (昭和17年卒)



世界保健機構(WHO)のエイズ対策プログラム(GPA)と、ロシアのセントペテルスブルグでのウイルス研究百年記念講演会に出席して、日仏エイズ会議の開催と押寄せてきている。WHOがされる清潔なプー湖畔で、五十六年前の津中、潮の吹く東海に青春時代を想い出しながら、窓から依頼をうけた原稿の筆を測るを得ないハメとなった。天然痘を地球上から撲滅した勢

いに乗って、WHOは西暦二千年にはすべての人類を疾病から解放しよう。Health for All 300と、勇ましいスローガンをかかけてきた。これは高圧面から立ち向けてきたのが十年前からのエイズの大流行である。本年七月の推定によると全世界に千三百万人のエイズウイルス(HIV)感染者が居り、本年前半の新しい感染者は百万人、その殆どアジアに起っている。定まれ、エイズの大溝はひしひしと押寄せてきている。WHOがされる清潔なプー湖畔で、五十六年前の津中、潮の吹く東海に青春時代を想い出しながら、窓から依頼をうけた原稿の筆を測るを得ないハメとなった。天然痘を地球上から撲滅した勢

津中学時代の思い出

鈴木 正彦 (昭和5年卒)



私は、大正十四年四月入学、高緑六軒駅より阿漕駅までの汽車通学であった。服装は、二筋の白線に星形の襟の帽子、白ゲートル、ズボンの肩掛け鞆で、夏服は四年の時に着替えた。有堀校長、小林教頭先生は共に

後に趣味として油絵を嗜むことになった。彼友の中には一流画師の個展や、絵画教室の講師になった者もいる。漢文、書道の浅野松洞先生は、中国の清聖の風貌があり、特に私を志した。三重文芸協会の設立、同人誌、三重文芸を創刊したことがあったが、その記念事業として先賢の遺墨展を石水会館で開催した時、厚かましくも先生をお尋ねし、書面の貸写をお願いした所、快く教条を貸し頂き御厚情は今も忘れられない。一見教官の着任御挨拶は、然らば大地は微笑むであろうと結ばれ、控室の生徒の拍手と笑いに包まれた。これは、今評判の、

私と家内は同窓会のお招きで九二年同窓会総会に出席させていただけ、誠にうれしく存じております。私と家内は同窓会のお招きで九二年同窓会総会に出席させていただけ、誠にうれしく存じております。

感謝の言葉

霍 順田 (昭和19年入)

日本を訪問することが出来たのは、同窓会と同窓生の皆様のご援助の賜ものであります。私と家内とともに深くお礼申し上げます。



オランダの芸術が流派に維持されて人類の至宝となり世界の人々が訪れて感銘をうけられる。人生は短く芸術は永しという言葉が特に現在のロシアでは美感をこめ身に込み、この格言は芸術のみならずオリジナルを専ぶ科学にもそのままであります。人類の福祉を願って歩んで来られたいルズ研究百年の歴史そのものでも、ある。昔オランダで開かれた学会に招待講演者としてレフランの、夜、前でエンリのセプションを受けたことが思い出された。政治経済の動乱が無いに似せたことにはないが、世の変遷を通じて人類の福祉を願う芸術、科学に共通した永遠なるものが存在することの永遠性への憧憬、求道の精神は青春時代にそなわっている。人類の病気の戦いの次代を何う戦士がそのような風土に恵まれた伝統ある津高からウイルス研究の道に一人でも多く進まれることを念願し筆を削ぐ。

# 三重桜部会長をお受けして

佐々木 かよ (大正15年生)



長年三重桜部会を我が子のよう  
に愛され、その育成に「尽力」を  
してきた村先生が、昨年来健康  
を害され会長を勇退になりました。  
そこで幹事会から引継ぎに総会  
副会長であった私を後任に推薦

頂きました。もとより浅学非才で  
その器がありませんし、高令でも  
あり困く辞退しましたが、是非  
にこのことを受けさせていた  
きました。  
会員の皆さんは、大正時代には  
「質実剛健、自律」を、昭和には  
「張りだ気風」を、目を  
輝かす激動の時代をそれぞれ家  
庭人として、社会人として立派に  
生きて来られました。  
故・竹島先生や村先生は母校  
の恩師として、部会長として三重

# ボランテイア

佐久間 かず子 (昭和23年生)



本を黙読する場合、例えば「安  
家川」が止し読めなくても、あ  
まり支障はありませんが、音読す  
る場合は、地名事項であつたが  
わであることを確かめます。  
昭和五十九年からNHK文化セ  
ンターの「ボランテイア」のため

朗読 講座で、腹式呼吸、発声、  
アクセント、読み方など二年余り  
勉強し、現在は大阪にある日本  
ラトハウス盲人情報文化セン  
ター(以下情文と略)で音声を  
しています。  
本を読むことが心底好きで測  
ることが少しも苦にならない連中  
と一緒に楽しくボランテイアを  
しています。  
週一回(ア)でスタジオ録音し  
、慶育(一般図書館の書物に当る録  
音図書)を作成、あと録音エス  
ト図書の家録音や校正をします。

# 終戦前後の寄宿舎

谷口 妙子 (昭和20年生)

私の寄宿舎生活は、昭和二十年  
四月から、学区制で転学するまで  
の四年間です。  
決断下の国民学校で皇国民練成  
の厳しい教育を受け、緊張して入  
学した女子学校は、伝統校らしく落  
ち着いた雰囲気、上級生もやさ  
しく迎えてくれ、ホッとしました。  
寄宿舎は講堂の側にあり、古  
い木造の二階建てで、高い棚越し  
に教室の屋根が見えていました。  
奥の深さを感じます。蔵書は読手  
モニター(編集操作、第1校正)  
第二校正、編集校正、マスター校  
正と、一冊の本を五人の目で読  
不明瞭な点、雑音などをチェック  
する厳しさを、それ故にこそやり  
甲斐もあるわけです。  
このボランテイアの何よりの取  
得は、色々な分野の本を手がける  
のが視野が広がることです。私は  
文学、歴史関係や、社会、環境問  
題など、一寸骨っぽいものの方が  
性に合って読み易いように思いま  
す。時には書中の文獻や古文書の  
調査に随分時間がかかり、図書館  
まで出かけることもあります。  
一般図書中の図表やグラフ、地  
図、写真などは開いて分るように  
文章化して説明します。折線グラ

# 三重桜総会の報告

とき/平成五年四月十一日(日)  
十一時三十分より

ところ/津都ホテル伊勢の間  
(三重会館前)

会費/五千円

備考/日程詳細については、  
後日年度幹事を通じて  
連絡いたします。

平成四年度の総会は四月十九日  
(日)蕨の美しいお城公園隣の津  
商工会議所五階で開催された。  
先ず、今村会長(勇退)に代新  
役員を承認後、佐々木新会長の挨拶  
引き続き泉賢として本部より  
二階席の辻会長、岡村副会長、上  
野前校長、井坂校長先生より、そ  
れぞれ暖まるお祝辞を頂いた。  
また長谷川副会長、恩師の長瀬

りお祈りながら会長挨拶のご挨拶  
と致します。

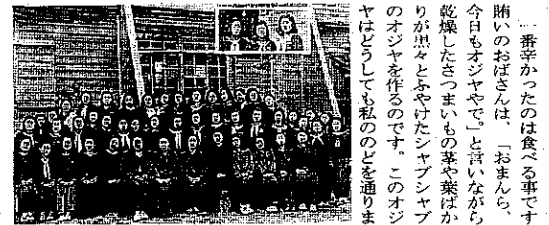
気味悪く軋み廊下や階段も時に  
は良い事もありました。その軋む  
音で会館の先生の巡回を知り、あ  
わて寝たふりをしたもので、  
わすか十二、三才で親を離れ  
た私達にとって、終戦後の四か  
月は大きな経験でした。空襲警報  
が発せられる度に校庭の防空壕に  
入り、心細い思いをし、ある時は  
ふと目をかぶりつて阿彌の津へ逃  
げたくもありません。津の街が大  
爆撃され、ヒューという音と共に  
とび上る破壊が震動した時は中  
で震えながら上級生にしがみついて  
生きた心地がませんでした。今  
も縁に突き刺さっていた爆弾の破  
片を記念に持っています。  
学校が休校になり、学生も一時  
帰宅して居る間に終戦を迎え、  
戦後の寄宿舎生活が始まりました。

# 京都洛北に住まいて

小西 麗子 (昭和17年生)

昭和二十五年頃、三重桜京都同  
窓会へ子供を連れて始めて出席し  
ました。その後、陳川・津高と合  
同じして昭和二十七年津高京都同窓  
会が発足、以来主  
人として出席し  
て居ります。  
洛北に住んで四  
十年、初めは津へ  
帰る時お隣(ち  
よと)と行つて来ま  
すのでお願いま  
す」と声をかける  
と「お早うお帰り  
や」と言われ驚  
きました。もう  
すっかり京都に馴  
れました。でも津  
生れの主人と二人  
だと時々伊勢弁が  
飛び出します。

子育てを終り、孫の守もすみ、  
ぼつぼつ京の名所歩き始めてい  
ますが、古いゆえととも生きて  
いる間に全部は忘れそうにもあり  
ません。  
近くを少しぶらぶら散策します。  
大徳寺の私の好きなお庭は高桐  
院で紅葉のすばしきは感嘆の一  
語に尽き、春の舞も一入です。  
細川三斎公好みの茶室松向軒、利  
休から譲られた欠け灯籠の露所、  
加藤清正の築掛けの膳頭などが  
あり度々訪れます。又塔頭の孤蓬  
庵の忘憂茶室も有名です。利休の  
善提寺の聚光院には毎年二月二十  
八日の利休忌に全国から茶人の参  
詣があり、誰でもお供えをしてお  
茶席で二瓶の後、点心をいただく  
ことができます。  
大徳寺の北に今宮神社があり、



一番辛かったのは食べる事です。  
賄いのおばさんは、「おまんら、  
今日もオシヤキや」と言いながら  
乾燥したオシヤキの葉や野菜がら  
りか黒々とさせたシヤブシヤブ  
のオシヤキを作ります。このオシ  
ヤキはどうしても私の口を通りま  
せんでした。それでも何とかやっ  
ていたのは、帰省する度にリュ  
ックに食料を一杯持つてきていた  
からです。部屋でそれを分け合っ  
て食べるのも楽しかったです。  
夏の暑い日にはスリッパのまま  
湖濱所のわき道を走り、阿彌の浜へ泳  
ぎに行つた事、ピアの上手な友  
達に食堂にあった古いオルガンで  
バイエルを教えてもらった事、ト  
ランプ古いや「コックリさん」を  
おぼえ子を買ってきたり、「心の  
旅路」や「美女と野獣」等の洋画  
を見に行った事、男の寮生を招  
いて飲んだ事等々。  
このような思い出が次々と頭に  
うかぶのに、勉強をした記憶が薄  
かんでこないのは不思議なこと  
です。心に焼きついた思い出は、年  
を経ると共に、層層かしく、会  
ば姉妹のように喜び合い、心がな  
ごみ、少女の頃のやさしさが残る  
のです。  
この思い出を共有する学校後  
後の同級生二十名は、来事も  
また、京都に集う予定です。



第1回京都同窓会のもよう

安良居祭りは京の三大祭の一つ  
で氏子の町の辻で鉦や太鼓に合せ  
て「やすらい花や」と囃し赤鬼が  
踊り、花魁の下に入ると病に罹ら  
ないといふおまじないが流行りま  
す。又参道にある古い唐揚屋のあ  
り餅は、炭火を織し蒸籠でばた  
ばたと焼き上げた味のお餅です。  
上賀茂神社には年中行事が沢山  
あり、太田神社の杜若、愛染倉  
深泥ヶ池、岩倉川通等も賑がっ  
つきます。  
鷹ヶ峰光悦寺の大徳院では臥牛  
垣の勾配が目玉を惹き内露地の翁  
愛の手洗鉢が萩の花を浮べてい  
ます。源光庵は浄土で情りの窓に  
正座しているといつの間にか神の  
眼窓の境地に引き込まれてゆきま  
す。常照寺は吉野大夫供養の鳥原  
の太夫道中が櫻の花の下で美しく  
行われます。  
鷹ヶ峰から北へ舟川、京見峠、  
水築へと続きますが、まだ行って  
おけません。  
梅の苑のクラス会の二案内を毎  
年心待ちにしております。

骨 嘴

清水勝馬 (昭和6年卒)



もう二十年くらい前のこと、或る朝、顔を洗っていて突然腰に激痛をおぼえた。静かに我慢していても、向痛みは収まらず、身体を動かすことすらできない有様である。勿論会社は欠勤、かろうじて床に仰臥し、ひたすら回復を待てる経過に委ねる外なかった。それも翌日には大分痛みも収まったので、医師の診察を受けたが原因は判然としなかった。やがて平常の生活を取り戻し、月日の経つ中、いつの間にかこの出来事を忘却してしまっていた。半年程過ぎた

平成四年 同窓パーティーを担当して

久野 誠 (昭和46年卒)



「眼を放つ、布引は―」実に二十年前に聞く校歌だった。甲子園の常連校なら、こんなになつてかしくなくともないのに、スホーションナウンサーは思つてしまった。けれど、感動を感じたことも事実である。
結局、この学校の校歌を歌うために、これだけの人が集うのではないのだろうかと思ふ。顔を覚えていた。中年のいいオジ

気にはなれず、もっぱら近所の病院へ通った。医師の忠告にしたがって好きだったゴルフも止めた。やがて会社を退き自らの生活に馴染んだ。或る日、久しぶりに例の悪魔の腰痛が又突発した。最近医療機器の進歩が目覚ましくレントゲンも大層化して、何枚かのレントゲン写真を取らなされた。原因はこれです。と先生がなかなか声を上げて指し示された箇所を見ると、腰椎骨の間に小鳥の嘴

津中・津高女 昭和二十四年卒業生 名古屋地区在住者書初め大会報告

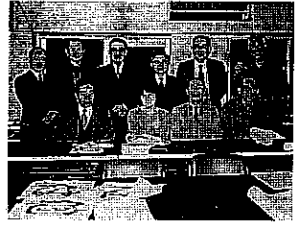
北岡 武 (昭和24年卒)

知不足勝不祥
平成四年一月五日午後、名古屋屋敷金山にある津中津高女道教室に集まった九人の同窓生、あるいは女学生の緊張した耳に飛び込んできた愛知書院院長藤井義章先生の第一声が表題の言葉であった。
母校って、いいな...
駐民性から言えば異郷の地、日立ちたがり屋アナンサーは、翌日のTVで訴えた。
「津高OBの皆さん、見てますか。」
又、後日ラジオの自分がハイソナリティーとなっているワイド番組で、同窓会の模様を話し、津高を連呼した。
最後に、津高OBのホーンテアウンサーの夢を。
大阪の放送局ではないので、実況は出来ませんが、現地の野郎部のか、自分の生をみつめ直す意味で、書き物もはじめ、平成三年六月、本を出版した。「逃亡記」そして

逃亡記出版記念 全国巡回陶展を終えて

川喜田 敦 (昭和32年卒)

作陶の道に入って十五年、きまじりさびだが自分の作りたいものだけを作ってきた。その間に、仕事も増え、世帯も増え、いま長谷山と緑ヶ原に築かれた山あいに住んでいる。「物を作る」とは何なのか、自分の生をみつめ直す意味で、書き物もはじめ、平成三年六月、本を出版した。「逃亡記」そして
「文芸両道 歴史と伝統に輝く津高高等学校 初出場。これまで多くの人材を、政財界に配し...」
なお、当日の要項の表紙を飾り、二の会報の面に掲載されている。
故郷津高の歴史(一部) (百五十号)を全面的な意思により、学校に寄贈。又、同窓会へは、クラーターを準備して、贈らせて頂いたことを報告しておく。
一足飛びに、ある種、このような心のふるさとについての語りかけをいたしたい。また既知であったはずの方々からは、これまでのおつきあいの振幅をはるかに越えて、新しい世界をみせていただいている。それはひとえに、「自分を守り」という行為が招きよせる大波小波であると思ふ。それだけが、たまたまだが、全品先づらめいた、大波財のこの企画の、それゆえに得られた私の大財産であった、といふ事思ふ



とたんにも思ひも思われ、声があつて、ちかちか、しかし、先生の隠心面...の言葉に励まされて、なにかそれらしきものを完成。
(二)でもまた、大朝報、さきほどのお手下に義章先生の落款を頂戴し、感々として次なる懇親会場である名古屋、パターナホテルの(伊勢)へ出発。
この日、師と仰ぐはずであった藤井義章先生(旧姓馬場幸子氏)は紙きり、筆洗ひ、戦り果の整理と本来は臨時弟子達が各自でやらなければならぬ後始末まで、やっていたに、申し訳なく感じました。
懇親会にはさらに三名が合流。
(二)でもまたお手本が藤井先生から披露されて、この日は全員はじめられ、この日でも藤井先生の連続した、この日も藤井先生のお人柄で、先生が動いた先で、かまきりが出て、書道談話本場に有意義な一日でした。お手上知りたい。
義章先生直筆の出席者全員の氏名でした。



各支部で

同窓会を開催!!

九州同窓会

鈴木 匠 (昭和16年卒)



本年五月十七日に第三回総会を福岡市で開きました。鹿児島県よ

名古屋同窓会

鈴木 正治 (昭和17年卒)

第一回津高名古屋同窓会は去る六月二十日(土曜日)に名古屋駅前

京都同窓会

別所 清 (昭和29年卒)

津の同窓会本部から辻会長、高島副会長、津高校から松本、松井

大阪同窓会

中山 正隆 (昭和44年卒)

津から今年も辻会長、井坂校長



大阪同窓会で学生諸君の自己紹介

第二十六回大阪同窓会総会懇親の親である野田哲道さんはじめ

各年度のクラス会開催

津中67期生八十一名が、還暦を

祝い、今後の一層の親睦を深めるため、平成四年九月二十二日、四

三重権昭二十年入(金蘭会)

九月二十二、二十三日に浜名湖を一望する箱山寺温泉で第二十七回

東京同窓会

近藤 好徳 (昭和29年卒)

恒例の会員講演を今年は「野田

徳田副会長、辻先生、恩師竹田

より、今年は野田さんのありじ

昭和二十六年卒(二六会)

昭和二十七年卒(二七会)

五月二十三日、二十四日、信州で同

九月二十七日、津都ホテルで開

各支部の事務局案内

Table with 2 columns: Branch Name and Contact Information (Address, Phone, Fax).



# 素晴らしき走友 吉原一真君との交情

## 新羅正雄（昭和8年卒）



卒業の年、高農主催の県下大会で制覇するというよき思い出を残した。正にこの頃は津高上級の歴史に於て黎明期で、昭和十四年ごろの黄金時代につながっていった。

彼は走るばかりでなく、画筆にも長じ、草陽会の中心人物の一人でもあった。

彼は周囲の勧めもあり、絵の方面に進む。進学コースへ進路を転換する。彼は静岡へ、こちらには名古屋へ。ともに言った柄柄で再びスパイクをはく。当時高の陸上部には、後年政界の表裏に名をはせた中曾根康夫、東郷武安らの豪傑が投擲陣に名を連ねていた。この二人と組んで俳句サークルをつくらせ、自由とロマンに溢れる高時代は、こうして青春をエンジョイしていった。

毎年一回、交互に神宮と甲子園で、高校アスリートの祭典全国インターハイが開かれる。ここで我

卒業以来、荏苒六十年、追憶に霞のたちこめる。昔ながら恒例の秋の校門マラソンに人賞したのが縁で、陸上部にスカウトされた。その頃、附属出の長身瘦削の軽快機敏ランナーが加入してきた。これが彼と最初の出会いであった。安濃川のほとり、畑の中の狭いグラウンドで、新人部生は控られた。彼らは短距離、こちらは中距離、体を鍛え、体力をつけるためと称し、われは徹底的に走らされた。二人ともエリート選手ではなかったが、所詮、普通、リレームメンバーとしてには不可欠であったが、

# 野田哲造大先輩を偲ぶ

## 大阪同窓会長 小津 正次郎（昭和7年卒）



今年のお正月に野田大先輩から頂いた年賀状です。何かに感じられたことがあったのではないですか。明治・大正・昭和・平成を生き抜かれた巨匠はついに永久の旅立たれた。

戦後の津高大阪同窓会の生みの親であり、又育ての親でもあった野田哲造大先輩が平成四年七月三十日天寿を全うされました。吾々会員一同は訃報に驚くと共に、今日の盛大なる大阪同窓会にまで育

成して頂いた大恩人のあの世への旅立に限りなき悲しみと哀惜の情に胸の迫る想いです。

願ひますれば私は野田大先輩にお目にかかったのは、四十二年秋、中之島の住友銀行本店三階役員室でありました。当時私は阪神電鉄の人事部長から経理部長に就任して、住友銀行本店役員室へ日参してました。役員室へ参上しますと、「君の評判は聞いています。津高大阪同窓会を開いたから、野崎会長を助けて母校の為、同窓会発展に協力せよ」とのことです。

京同期生は社行会を開いた。学生時代と異って臆病気味で、その健康に耶か心配であったが、第二の人生へ旅立つに当り頗る意気軒昂アルゴルの回ると共に、長年手がけた春秋の叙叙叙に触れ、そのウラ話、秘話をアフレコで熟読して、

国体が地元で開催されるに当り、全力をふり絞って準備に当たった。開会式に當り、入場行進の先頭に立ち、緊張と面持ちで頭右にしている姿が印象的であった。テレビに彼の面目知らぬものが映し出されて、

彼のスポーツへの愛着は人後におなじみであった。伊勢路の秋の風物日本大学駅伝は二四回を数えるに至った。今や全国的イベントとして定着する裏側には、地元の協力が不可欠である。彼はゴールの伊勢路で行われる閉会式に必ず出席し、優勝チームに知事杯を手交していた。殆どの大会では、地元代表は那須活動クラスでお茶を濁すが通例であるに拘らず、これは異例の熱の入っていた。主催者側では、感激して、何事にも実に見帳面、律義正

しく、責任感旺盛であった。東京津高同窓会へも遠路はるばる病軀を押して出席する姿に、痛々しいものが感ぜられた。陣川陸上OB会にも必ず顔を出し、彼一流のスポーツ論を語っていた。彼の残した執筆集「素晴らしき人びと」の中に、その昔、中国の戦国時代の有名な故事、伯夷叔齊兄弟のほなを引用、一たん隠匿した首陽山から、自分も程をみせていた。並々ならぬ決意の程をみせていた。私の見方は、彼は地位者には頼着するような人柄ではない。病床にあつても若かりし日を想起し、その敬愛精神が彼自らを叱咤激励しているように感ぜられた。

彼は人倫の道を重んじ一人一倍師。友人の恩に感謝の念を持ち続けていた。右記執筆集の随所で、我々仲間を「素晴らしき有名無名人」と呼んでいる。今ここに、私は彼こそ「素晴らしき」にヒタリ備する人であると信じている。

確かにスポーツマンの友情は素裸の触れ合いであるといえる。彼はこの純粋な精神、深く惹かれていた。人との出会い、地の触れ合いを大切に、そこに生き甲斐を求めた。私はここに彼のスポーツマンシップが凝集されて

戦時補償の整理、令嬢機関の再建整備に努力しておられた内に公職追放令が適用され追放されました。

野田大先輩、あなな育成された大阪同窓会が立派な伝統と歴史を守り、しっかりと備ひて参りましょう。

野崎会長のお目に到りました。近年ややマンネリに陥りしが打解のため古い世から新しい世代へのバトンタッチを如何にスムーズに行うか鋭意力中です。

大先輩の残された輝かしい伝統と歴史に誇りを残さない様、一生懸命頑張りますので暖かい慈父の目でお見守り下さい。

謹んで御冥福をお祈り申し上げます。 倉奉

保地先生が津中学校へ着任されたのは大正洋戦争後、昭和十九年三月でした。やや赤味を帯びた顔と丸い瞳、そして柔道鍛えた相強な体格などの印象から赤鬼先生というあだ名が付き

ました。しかし、先生はまことに人間味あふれるお人柄で、当時の軍国主義一辺倒の風潮にもかかわらずその教育方針は真面目で厳格ななかにも生徒に対する思いやりがあり、生徒も敬愛の念を抱かずにはおられませんでした。

先生は私と同郷の茨城町から自転車通勤しておられました。当時、安濃川の沿いに郵便鉄道が走っており、先生は小柄な体にもかかわらず普通より大きい車輪の自転車、車と競争されました。私た

# 恩師を偲ぶ

## 保地先生



い男を失って、誠に痛惜の極みである。その温容姿と永劫の別れを告げねばならぬとは、寂寥の感一入である。

素晴らしき走友よ、安らかに眠り睡え、その昔、君と汗と涙を流して闘った陣川陸上の同志と共に心から冥福を祈り申し上げます。さようなら。吉原一真君、嗚呼。

ち生徒は車窓から眺めて下さり、体操の先生は遠くへと感心したものです。

戦後、私たちの学年（昭和二十一年、二十二年卒業組）は先生から人体と保健の授業をうけました。人体に関する説明は特に印象的で、時々脱線して生徒を笑わせたり、けつこう面白く授業でした。

先生が昭和五十六年に叙勲を受けたとき、曾て担任していた私たち四組の連が祝賀の会を開いたところ、八割方の人が集まり盛りあがりでした。先生が涙を流さなばかりに喜んでおられたお姿が今も目浮かびます。心から先生のご冥福をお祈りします。

# 藤田先生



山田郁子（昭和26年卒）

衛隊に勤務になった。津中で教鞭をとっておられた藤田先生に教を受けたのはこの頃である。男女共学にや戸惑いながらもお互いに从かな憧れともいえる思いを抱きながら机を並べて授業を受ける私達先生はいつも慈父の目で見守って下さった。教科書もノートも満足に無い時代であったが先生の授業は穏かで心暖まるものであった。

先生は、今私自身に思い出される先生の授業のひとつである。一見、近寄り難い感じだが、親しみやすさがある。東大出身のお坊さんというユニークさも手伝ってか、深い知識と存在感がある先生であった。

そんな藤田先生が享年六十八歳という若さでおじけになりました。先生の御冥福を心よりお祈り致します。

# 後藤 昭



「前日に法事であったのか、元氣なく教室に入ってきて椅子にすわ

わられる。顔だけが机の止にこぼれんのか、と不思議に思いました。えーっと、独特の舌を巻くような解説。授業全体が睡魔に襲われそうになると、変拍子のついでと変わる。特に面白い話があるわけがないが、なかなか楽しく分

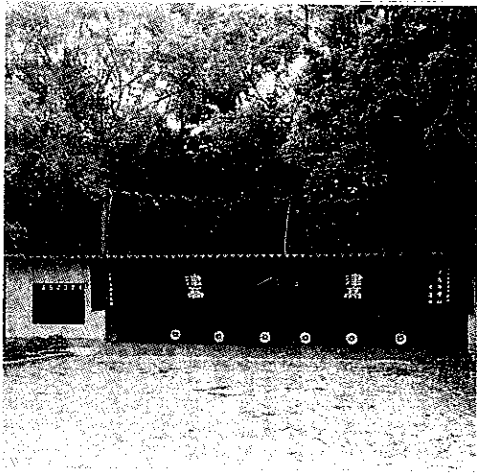


「真夏の夢」アサヒカメラ第3位 栢原 博 (昭和12年卒)

「クラス会という横の繋がり」に  
対して、部活動を通しての縦の繋

半世紀前の青春時代に戻り、思  
出話に花がさきました。  
アルコルが進むにつれて話は  
やはり野球の事、先輩のプレーに  
憧れてグラウンドに通った少年時代  
の思い出、その先輩に敬いノック  
を受けた事、プレーをした試合  
の回顧談等々に加えて、初めて名  
刺交換した先輩OBと若いOBと  
の間では「職場が近くはないか  
」、「仕事の上で関係があるのじ  
やないか」、等の会話が交わされ  
ておりました。

カラオケに盛り上がる雰囲気の中、  
応援歌「高き峰の峰にとり  
——」、凱歌「白馬に銀の鞍お  
きて——」の合唱に、老いも若  
きも同様に、白球を追った選手時  
代に戻って青春の血潮を漲らせ、  
来年の再会を約して散会した次第  
です。



津高  
遺跡  
三ツ村健吉先生  
「勲四等瑞宝章」  
鈴木 一生 昭和26年卒  
受賞祝賀会が陸朋会(津中・津  
高女・津高)有志で平成四年九月  
五日、津市桜橋通り「陶陶」にて  
開催されました。  
東京・名古屋・神戸等各地より  
五十余名の御集集を頂きました。  
陸朋会では名簿の整理と記録・エ  
ピソードなどを資料を集めて後輩に  
伝えたいと考えています。関係者  
各位の御協力をお願いします。

本年度同窓会総会にて平成五年  
三月、日より終身会費を一万円と  
することが決定されました。つき  
ましては、封筒の表に「終身会費  
お願」と印刷させていただきます。  
友、同封の振替用紙で六千円(三  
月、日以降は一万円)ご送金下さ  
るようお願いいたします。尚、いき違  
いの場合はお知らせ下さい。  
住所の変更、改姓等の異動があり  
ましたら卒業年度を明記の上はが  
きでお知らせ下さい。  
・津中水泳部OB会報がOB会  
の(努力)で編まれました。  
・本校図書館に同窓会文庫があり  
ます。書物を編み、出版された  
方はぜひとも文庫へご寄贈下さい。

事務局だより  
・会費三十円をお届けいたします。  
まい、郵便がないことを願って  
います。

### お知らせ

## 平成五年度 同窓パーティー

日時 平成五年八月七日(土)  
午後三時より

場所 津センターパレス(三重会館前)  
担当学年幹事 昭和35年卒代表 関口弘之  
昭和47年卒代表 黒川信行

## 平成五年同窓パーティーは「講演会」を計画



小南 一郎氏

平成五年度の同窓パーティーは昭  
和三十五年、四十七年の卒業生が  
担当いたします。今夏の同窓パ

タイでのサロンコンサートは格調  
高いトクとフルート、ピアノの  
すばらしい音色で聴衆を魅了、好  
評でした。そのあとに幹事をひき  
うけますのは、少々荷が重い気も  
致しますが、会員の皆様に気軽に  
ご参加いただき、旧交をあたため  
つつ、楽しいひとときを過ごして  
いた行なうようにと、目下相談を  
重ねております  
メインイベントとして、三十五

年卒の京都大学教授小南一郎さん  
の「講演会」を計画致しました。  
小南さんは中国神話学、道教、  
物語り文芸などの研究を専門とし  
、主要著書として西王母と七夕  
伝承(平丸社)中国の神話と物語  
り(岩波書店)などがあります。  
また、中南民族学院(中国・武漢)  
の兼任教授もつとめられています。

今年度は「地域と教育」と題して  
の講演をさせていただきます。私た  
ちの生活文化と関わった興味ある  
お話しにのめり込んでいかないと  
に期待しております。

総会パーティーでは、お集まりの  
皆様は少しでも多くの語り合いの時  
をもつていただけたら幸いです。津高の  
歴史と伝統を大切にしつつ、年代  
を越えてのきずなが深められ、し  
かも多くの皆様に喜んでいただけ  
るパーティーにしたいと欲張っ  
たことを考えています。  
担当学年一同、心をこめて準備  
をすすめてまいります。皆様お誘  
いあわせて、多数ご出席くださ  
いますようお願い申し上げます。

## 新しい弓道場建設

### 出丸 久之(昭和37年卒)

本校西門近くに新しい弓道場が  
建設された。これは上野喜久生前  
学校長のご尽力によるものである。  
この道場の完成に合わせて、落  
成記念として造園等の整備をしよ  
うと、OB有志の方々が陳列、  
三重橋、津高のOBに呼びかけて  
多額の寄付を拝受した。  
昭和三十八年の全国大会優勝記  
念の弓道場の黄楊は、新しい  
黄楊に替えられ待望の通路屋根も  
設置された。それに合わせて、道  
部には矢道、安上周辺の整備を行  
った。  
尚、全国大会優勝メンバーの

人である岸井博史氏(昭和三十七  
年卒)による弓道場の看板はその  
まま残され、津高弓道部の歴史を  
物語っている。  
新弓道場の披露を兼ねて、八月  
十六日に上野喜久生校長にも出席  
をいただき、OB三十五名、在校  
生四十五名が参加で落成記念射会  
が行なわれた。

代表・前川 洋一

津部ホテルにて

代表・関口 弘之

津部ホテルにて

代表・黒川 信行

津部ホテルにて

代表・関口 弘之

津部ホテルにて

代表・黒川 信行